

被災地派遣レポート＜第128回＞

港湾局離島港湾部建設課 長山 英樹さん

1. 執務環境

派遣先：宮城県農林水産部漁港復興推進室漁港整備班

派遣期間：平成25年4月1日から平成25年6月30日の3ヶ月

- ・勤務場所は本庁で、仙台市の中心部に位置することから、通勤や普段の飲食には非常に便利な場所
- ・業務においては、漁港復興推進室と漁港基盤整備課が同一グループとして業務を行っており、全36名の職員が在籍。うち4名が他県からの派遣(東京都、三重県、北海道、鹿児島県から各1名)。
- ・漁港整備班は全5名(うち他県からの派遣2名(東京都・三重県))で、和気藹々とした雰囲気のある班だった。

2. 業務内容

都からの派遣職員が行う業務は、宮城県内にある全142漁港の震災復興に関し、水産庁への手続き関係書類作成と災害復旧工事設計書・契約書類の審査等である。

①水産庁申請関係

- ・災害復旧事業費国庫負担金交付申請
- ・災害査定設計変更

②工事契約関係書類

- ・下請承諾関係の承諾手続き
- ・設計書の整理
- ・設計変更手続き
- ・公告準備

3. 生活環境

- ・宿舎：宮城県下愛子職員寮 鉄筋コンクリート造り バス・トイレ・キッチン約6畳(70-リットル)
JR仙石線陸前落合駅徒歩5分 通勤は40分程度
- ・必要な家具や家電は都が用意してくれており、不自由はなかった。
- ・寮と道路を挟んで向かい側にスーパーがあり、食料品・日用品の調達可能。
- ・スーパーの敷地内にクリーニング店あり。
- ・職場からの帰宅途中にアーケード街でショッピングが可能。また、休日には市内観光や近隣の温泉めぐりなど、オフの時間も充実。
- ・東京都被災地支援宮城県事務所の支援が厚く、困ったことなどは気軽に相談できた。

4. 派遣業務を振り返って

- ・業務については「本当に貢献できたのか」という感がある。
- ・業務やプライベートで津波の被災地を巡り、その状況を体感できたことはためになった。
- ・3ヶ月という短い期間ではあったが、体験したことや感じたことを、今後に活かしたい。

【被災・復旧状況】現地視察など



気仙沼市(2013.4.25)



女川漁港周辺(2013.6.20)



東松島市大塚東名(2013.4.18)



石巻漁港復旧工事状況(2013.4.18)

【観光】



仙台青葉祭り(2013.5.19)